

学びを促す学習コミュニティの創造と運営

日時： 2012年8月22日（水）13:00～17:30（2部構成）

場所： 東北大学川内北キャンパス M棟6階

【第1部】セミナー（13:00～15:05）

到達目標

- ◆ 学習コミュニティがどのようなものかを理解できる
- ◆ 学習コミュニティをいかに形成し運営するかを理解できる
- ◆ 学生の学びと学習空間の多様性について他者に説明できる

13:00-13:10 趣旨説明（杉本和弘）

13:10-13:55 講演

井下 理（慶応義塾大学教授）

「学ぶ人による・学びたい人どうしの学習コミュニティの形成：一空間・時間・
集団・制度の再設計と協働に向けて～」

13:55-14:05 質疑

14:05-14:20 事例報告1

米澤 誠（東北大学附属図書館）「アフォーダンスとしての大学図書館」

14:20-14:40 事例報告2

足立佳菜・鈴木学（東北大学 SLA サポート室）「SLA 実践紹介～学生同士の学
び合い文化の創造を目指して～」

14:40-14:55 事例報告3

今野文子（東北大学大学教育支援センター）「ブレンデッド・ラーニングと学習
空間～「ともに学ぶ場」を創る～」

14:55-15:05 質疑・まとめ（杉本和弘）

【第2部】ワークショップ「学生の学びをソウゾウする」(15:20~17:30)

到達目標

- ◆ 参加者の経験を踏まえ、学生がどこで誰といかに学んでいるかを説明できる
- ◆ 学生の学びを促す仕掛けや方策を具体的に発案できる

全体進行：杉本和弘

15:20-15:30 アイスブレイク

15:30-15:50 ワーク1「学びの経験を共有する」

15:50-16:00 情報提供「学生の「エンゲージメント」とは」(立石慎治)

16:00-16:25 ワーク2「学生の主体的な学びを考える：学生の視点から」

16:25-16:30 休憩

16:30-17:25 ワーク3「主体的な学びを促す仕掛けを考える：機関の視点から」

- グループ発表と井下先生からコメント

17:25-17:30 全体まとめ(杉本和弘)

【第一部】セミナー

1. 講演「学ぶ人による・学びたい人同士の学習コミュニティの形成」井上 理 先生

(1) 学習コミュニティの定義

いろいろな考え方があるが、本セミナーでは「学生・教職員等の大学に関わる人々が、学びによる成長という価値を、協力・協働を通して実現していこうとする空間」と定義する。すなわち、現実として全ての大学に適用できる議論をするわけではない。

(2) 学習コミュニティ形成のために必要なこと

構成員(学生、教員、職員)全ての主体的な学びとその継続、及びそれを支え、促進する学習空間の整備。

(3) では大学をどう変えたらよいか

- ① 教員と職員の役割の再定義・再編による相互性・対等性の確立
- ② 学生の学習行動の変容を引き出す教授行動の変革
- ③ 双方向性・集団討議型授業に適した教室環境の整備

2. 事例報告

(1) 「アフォーダンスとしての大学図書館」米沢 誠 先生

東北大学附属図書館の取り組みで、いわゆるラーニング・コモンズとしての機能を充実させる事がねらい。ICT学習を初め、グループ学習、長期滞在型学習、英語多読、などを行う気になるよう、設備の充実を図った。加えて、図書館員による学習指導やセミナーも行っている。

学生へは、授業等を通じて教員からアナウンスすると同時に、図書館員自らも学生にアプローチ。今後は教員自らの利用も増えるよう考えてゆく。一方、研究中心の教員には期待していない。

(2) 「SLA(Student Learning Adviser)実践紹介」足立 佳菜 先生、鈴木 学 先生

現時点では学部1-2年生の物理・数学・化学の履修に関する、3-4年生及び院生による学習支援の場を、川内キャンパスのマルチメディア棟1階に設置。学生同士の学び合い文化の創造を目指している。設備としての工夫は、照明(ある程度照度を高くする)、ホワイトボード、可動・可搬式のテーブルと椅子、など。授業科目に関しては、学生のニーズから設定。文系科目については今後の課題ではあるが、授業の性質上実施は困難かもしれない。

(3) 「ブレンディッド・ラーニングと学習空間」今野 文子 先生

メルボルン大学の例の紹介。質の高い卒業生を輩出するために、目的に合わせてデザインされた学習空間を開発している。授業のうち、知識の伝達に相当する部分は事前にe-learning等により提供し、教室ではディスカッション、グループワークなど学び合いを中心とした活動を実施。このため、教室のレイアウトをそのように工夫。実情として、卒業生のレベルアップとは「レベルダウンを防ぐ」に近い。

【第二部】ワークショップ

1. ワーク1「学びの経験を共有する」

学生時代に、自分が成長したと感じた時はどんなときか、成長を促すきっかけとなったエピソード等を各自が紹介した。概して精神面・人格面を中心とした人間的な成長と知識・理解の向上など学問上の成長に大別され、様々なエピソードが紹介された。年配の参加者(昭和20年代生まれ)を含むグループからは、「自問自答」「恩師との出会い」といったキーワードが提示された。

2. ワーク2「学生の主体的な学びを考える:学生の視点から」・・・学生がどうであればengageしたと言えるか?

まとめると、学生自身の興味や欲求に基づく「学びたいもの」に対して、自分のペースで、期待感を持って取り組んでいる状態、といった意見が出た。

3. ワーク3「主体的な学びを促す仕掛けを考える:機関の視点から」・・・費用を度外視して

まとめると、課内授業については「インタラクティブな授業の設計とそれを可能にする教室の使用」、課外授業については「人生のモデルとなりうる人と出会い、自身の生き方について共に探る時間を増やす」、といったアイデアが出た。